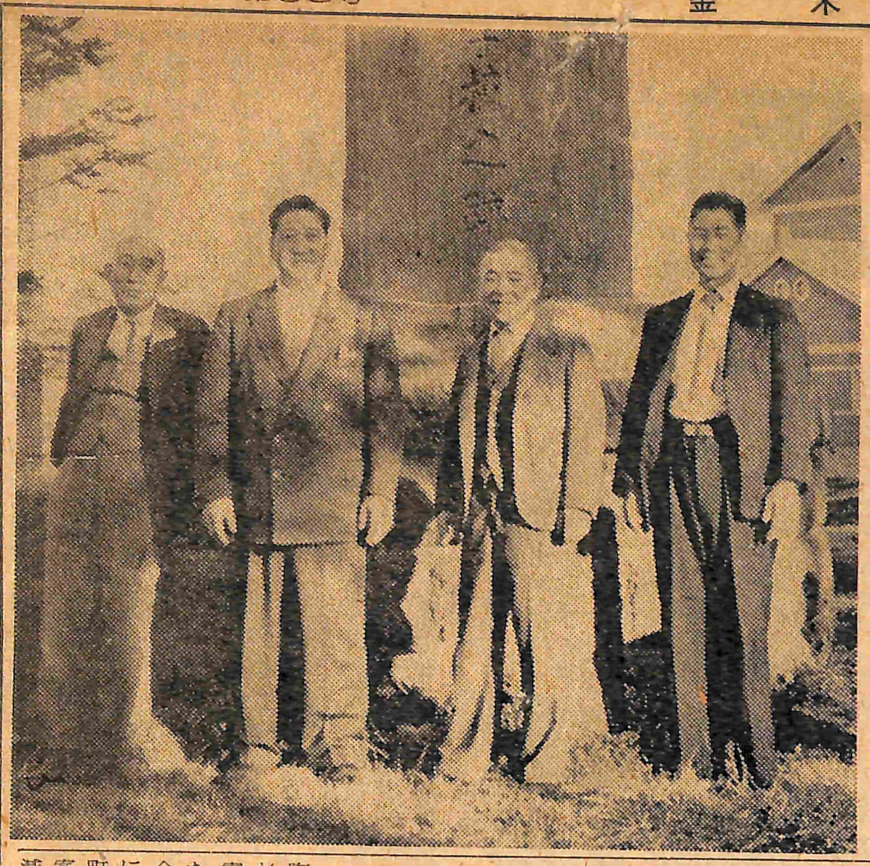


ニューヨークから

藤元さん出身町 今年も寄付

金中など三校へ

記念に藤元文庫で残す

終戦から毎年続ける篤志家

○… アメリカの藤元さんといえば『寺町菊地食堂の母さんの兄さんで』…○

○… 毎年町内の学校にお金を送ってくれる人』と知らないものがない…○

○… この藤元さんから今年も、金木高校、金木小、中学校に各二万円…○

○… 計三万円が送られ、妹の菊地リツさん(79)＝金木町寺町＝から一…○

○… 月三千円それぞれの学校に届けられ、町民一同を感激させている。…○

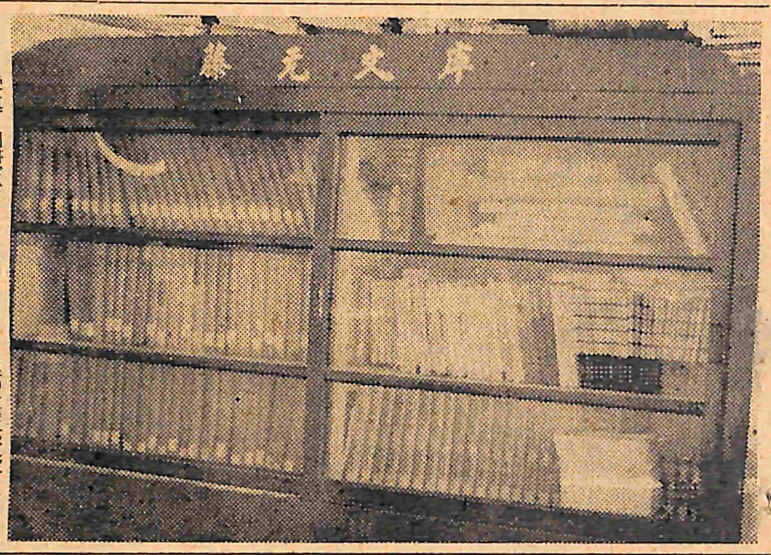
藤元嘉嗣氏(79)＝ニューヨーク市八三の一〇一、レストラン『チェリー』経営者＝は、寺町菊地食堂藤元リツ(79)さんの兄さんで、終戦直後から毎年のように、母校の金木小、中学校をはじめ、金木高校、保育所母の会や婦人会にミルク、コーヒー、キャンデーのほか妹リツさんの手を経て、現金で三～五万円を寄付し、町民一同を感激させている篤志家である。

このたびも、町内三校に三万円を寄付してきたが、各学校では関係者一同と相談のうえで使途をきめることになっている。

(写真＝昭和31年来町のさい、明治校跡記念碑前の藤元さん…左から二人目)

現在まで、年々送られる現金以外に寄付されたものは①昭和二十六年、金木中学校に十万円を現金で寄付し、同校では『藤元文庫』を設置した②昭和三十一年十万円相当の株券を金木中学校に寄付、同校ではその配当金で『藤元賞』を設定し、卒業生男女各一人に贈っている③昭和三十二年～三十八年まで金木高校に七万八千円寄贈されているが、同校でも『藤元文庫』を設置して図書を購入した④金木高校と同額の寄付を受けている金木小学校では、毎年卒業生にノートその他の記念品を贈っている。などがその主なもので、いずれも有意義に使われている。

藤元氏は今から四十三年前、外国航路の船に乗りたいといって故郷を出たのがきっかけで、ニューヨークに住みついたもので、この間に三十六年ぶりで去る昭和三十一年九月に当町を訪問し、三十六年七月には長女ミツさん(36)＝当時二十七歳＝が、日本語がわからないので通訳を連れて金木を訪れており、ニューヨークでは夫人オクターベさん(56)＝フランス人。藤元氏がニューヨークで勤務していた会社の社長の仲介で結婚＝のほか一女二男のよきパパであり、同市在住日本人としての成功者の一人である。



(写真＝図書がギッシリつまっている金高〝藤元文庫〟)

三上町長の話＝国内に住んでいる同郷者でもこんなことはなかなかできないものです。しかも十数年も続けているのです。藤元さんには機会をみて、なんらかの形でお礼申しあげたいと考えています。

金小へ五千円を贈る

寒修行の大和講支部で

御詠歌〝大和講〟金木支部（代表者＝栄町山田キエ）では、このほど部員一同が寒修行で得た報謝金五千円を、そのまま金木小学校に寄付し同校関係者から感謝されている。

伊藤校長の話＝アメリカの藤元さんや、このたびの大和講の寄付金など、いずれも学校のためを考えてのことですから、近日中に先生方やPTAの方々と打ち合わせたうえで使途をきめたいと思います

金山林道が完成

喜良市財産区の事業

昨年の十月から、事業費百七万八千円で喜良市財産区が工事を進めていた金山林道は、さる十二月二十日完成した。これにより、毎年喜良市金山地区官行造林地内の素材三万石の搬出、八十㌶の植林が可能となる。

町税の減免

総額で63万余円

ひょう害の申請者に適用

昨年九月十一日、川倉、藤枝地区が雹（ひょう）害にあったが、被害者からは町税の減免申請があったので、町当局では雹害対策委員会を設けて調査を進め、その資料に基いて、町長が第二十六回定例町議会に町税の減免方について提案し、原案どおり可決された。減免税の要綱によれば次のとおりである。

被害率七〇％以上＝全額免除
同五〇～六九％＝三分の二減
同二〇～四九％＝二分の一減

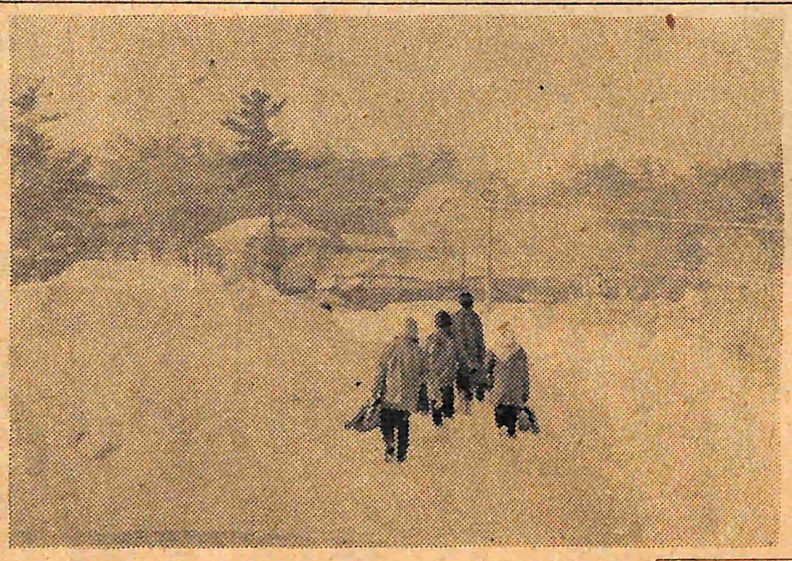
これを税額別にあげれば町・県民税三十二万一千百円、固定資産税二十二万一千八百円、国民健康保険税三十一万円、合計八十五万二千九百円の減税となる。被災者は百七十七人。

向上した葉タバコ

十㌃当たり六万二千円平均

昨年の金木地区のタバコの作付け面積は約十四㌶で、葉タバコの収納は去る十二月十二日から始まり二十六日で終わった。

調査によると、十㌃（一反）当たりの収量は平均二五四㌔㌘、収入は六万二千円で、しめて八百四十六万円という金がタバコ耕作者のふところに入った。



納税組合に助成金

設立費にも交付と改正

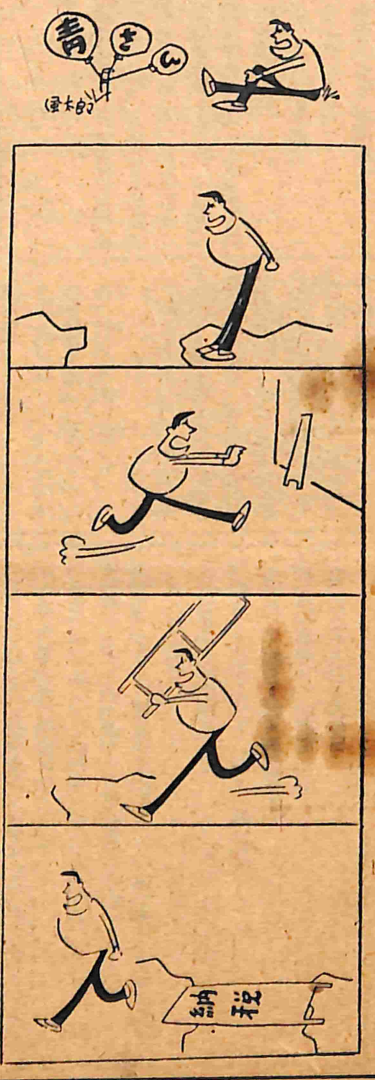
第二十六回定例町議会で、金木町納税奨励金交付条例を改正する条例が原案どおり可決になったが、改正された主な点は次のとおりである。

いままでは既設の納税組合に対して、維持費（事務費）として一組合当たり年間一千五百円以内、組合員一人当たり百円以内の額と、報償金として年度内完納の場合は完納した町税の百分の三以内の額を助成していたが、こんどそれに組合を新らたに設立した場合設立奨励金として、一組合に対し一千円以内の額と、設立当時の組合員数に対し一人当たり十円以内の額を助成することになった。

てん菜の作付け希望

二月中に農協へ申し込みを

今年、てん菜の作付けを希望する方は二月中に最寄りの農協へ申し込んでください。細部についての問い合わせは役場産業課または農協へ。



町民の声

ブルドーザーに感謝

一月の中頃、ウチの便所がいっぱいになり、衛生車（便所のくみとり車）にかたづけてもらうつもりで交渉し、日取りがきまったのですが、その三日前に大雪がふり、そのため道がふさがれ衛生車が入ることができなくなりました。そうかといって私個人で除雪するのでは何日かかるか見当もつかず、そうかといって自分で汲みとり捨てるにも、その場所が付近にありませんので困ってしまいました。このことを遊びにきていた友人に話したところ『役場のブルドーザーにきてもらったら……』というので、厚かましいこととは思いましたが、電話でお願いしてみました。役場では『それはお困りでしょう。今日は出動していませんから、明日にでもやってあげますから安心してください』とのこと。そして翌日すっかり片づけてくれました。

おかげさまでたすかりました。そのお礼に〝夏よりもよい道路〟をつくってくれたというシルシを写真にしてお届けいたします。

（湯の川　○生）

投稿は四百字以内。建設的なご意見をお寄せ下さい。紙上匿名も可

農業構造改善事業促進講習会

日時　二月二十日（水）自午前十時至午後四時
場所　金木町青年研修所
講師　県構造改善室、農業会議から派遣されます。

◎受講希望者は二月十八日正午まで金木町役場企画室へ申し込んでください。受講者には当日の昼食をさしあげます。

主催　青森県農業会議
後援　金木町農業委員会
　　金木地域農業構造改善事業促進協議会

知事選挙立ち合い演説会

ところ　金木町青年研修所
とき　二月二十三日（木）午後六時

市町村議会議員はさんづけだが、県議、代議士ともなれば〝先生〟と呼ばれる。ところが、この先生は学校の先生と違って、普通人には想像もつかない〝忙しい人種〟だ。
今回おたずねする当町出身の花田県議会議員もその例からもれない。
小田川ダムをはじめ、郵便局の新築などの件で上京陳情した結果を知りたいので、十日ばかり前から連絡しておいたのだがなかなかお会いする機会がない。
ようやく連絡がついて、さる一月二十一日自宅にお伺いしたところ先客が三人いた。
(K)

金木町出身の 県議会議員 花田一氏

運良をたずねて ①

『金木もそろそろ昔の金木から脱皮しなければいけないと思う。嘉瀬、喜良市中学校の問題でも部落根性が抜けないからなかなか解決できないのじゃないのだろうか…日本はいま百万都市だとか、広域都市の建設にとりかかっている時代に入ったのだからネ……。
国、県、金木という関係で、私の手がけている事業について、聞きたいといっても、私ひとりでやれるものでもないし、そういうことを聞くことそのものが部落根性だよ……』とたいへんなお叱りを受けたが、そういいながらもつぎのようなことを知らせてくれた。

●小田川ダム
昭和三十八年度には、一般調査費として一千八百万円を要求して一千六百万円の予算がついた。
今までは、毎年特別調査費として五～六十万円ていどの予算よりつかなかったのであるが、十年がかりでようやくここまでこぎつけたことは、地元の熱意が認められたものと思う。
それに時期的にもよかったと思う竹内大蔵政務次官、当町出身の津島文治氏が農林政務次官と、小田川ダムの関係担当省にいるのでトントン拍子だった。
農林省の全体計画によれば三十七億七千万円（昨年十月頃で約二十五億ときいている）となっており三十七年度では約一千五百万円が予算化されている。
県段階では、去る十二月の定例県議会で八百万円の予算を獲得しているなど、当地方の事業で最も有望だといっていいだろう。
ただ着工時期がいつになるかが問題で、今後さらに強力に運動する必要があると思う。

●金木川の一部改修工事
昭和三十六年度から七千五百万円の予算で、継続事業として実施してきているが、現在まで一千七百万円の事業を消化したのみであるが、これも国の予算措置いかんにあるので予算獲得に努力する。

●小田川の改修工事
小田川の改修工事は、合併以前からの要望があって一部工事を実施したのであるが、事情があって一時中断されていた。ところが最近関係受益者から要望があり、ふたたび着手しなければならなくなった。しかしながら原始的な河川でもあり、工事費は約二億円ほどかかる国営事業でもあるので、政府に対し三十八年度に着工するよう陳情し、早期完成を要望したい。

先輩と共に町づくり
電話 郵便 局新築にも取っくむ

●青森―金木間の直通道路
横山青森市長と寺山県議と先日話しあいしたが、青森側の用地買収がこのほど折り合いがついたから希望がもてるようになった。この道路は開拓道路で幅員がせまいので、完成後県道に編入させて拡張をはかり、大型バスの運行可能なものにしたい。

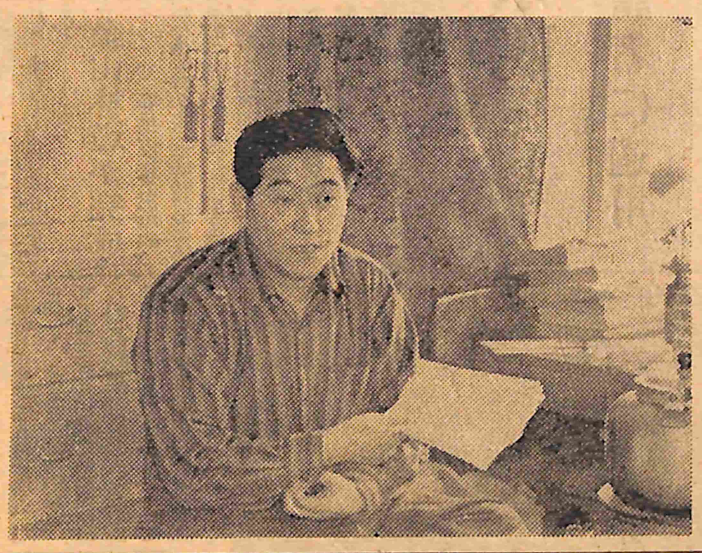
●金木バイパス路線工事
当町内を通っている県道は、最近交通量がはげしくなったのと、将来の交通路線を考えて、伊藤製材所から森林軌道跡地を利用して、（秋谷農園前にでる）の副線とすることを陳情してきたが、約七千万円の工事費で明年度から着工する見とおしがついた。
ただし、できることであれば川倉（湯の川）まで延ばしたい。

●青森県養鶏指導所の増強
弘大農場の軒下に借家まいのような形の指導所を、三年計画の予算八千万円で付近町村と協力を得て移転増強させる計画をたてているが、このまま放置しておけば、森田村にできる県家畜試験所に吸収されるおそれがあるので、これを存置させるとともに移転増強をしている。
喜良市保育所の件は、県児童婦人課と国民年金課で了解し、明年度には国民年金の還元融資で新築することになっている。

●金木郵便局の新築と電報電話局の新設
郵便局新築のことについては津島局長から依頼され、三上町長とも上京し、竹内大蔵政務次官を通してお願いしたところ、全国新築順位では十七番目だったのを明三十八年度に着工することが確約されている。したがって請け負い業務の電報電話関係も独立することが早くなる公算が大きくなった。
独立した電報電話局ができれば、金木から小泊までの間は即時通話ということになるので便利だ。

●失業保険巡回相談所の設置
金木、中里両町の失業保険の受給者は、年間約一千七百人で、支給額が八千五百万円から一億となっており、この相談所を金木に設置することによって、毎週五所川原市まで行かなくてもよくなるばかりでなく、支給額の一～二割は町の利益となって還元されることになろう。
さらに稲垣、車力両村の分もここで支給されることも予想されるのでぜひとも実現させたい。

●農業共済金と自作農創設維持資金
川倉の雹害などの災害による共済金は一千六百万円を要求したのだが、一千百万円と決定になり申しわけないが、それでも県下では最高額なのでどうやら面目がたったと思う。自創資金も三千万円というワクを確保できた。
花田先生からお伺いしたことを要約すれば以上のようなことだったが『叱られるかも知れないが、金木の商工業者は要領が悪い。青銀相互、信用の三支店の預金額が年約十二億円もあるのに、貸し出し額がその割り合いからみて低い。もっと還元されるようにすべきだ』と結び『あと十分で青森へ行かなければならないので……』だそうだ。マコトに忙しい人種だ。


（写真＝メモ帳をみて説明する花田県議）

●金木高校の増築
県立に移管され、体育館は青高なみの規模のもの九分どおり完成したが、教室が不足している。この予算は一千百九十万円で明三十八年度に増築することになっている。

●金木病院の患者輸送車購入と喜良市保育所の設置
利用者がふえている金木病院では患者輸送車（救急車）がほしいというので上京のたびに厚生省にお願いしてきたが、明年度には補助がつくのではないかと思う。現在も東京事務所を通して交渉を続け実現させたい。

県、大雪に警報

枝折れ回復に十三年
りんご園は計画的に見回れ

県りんご課では、一月に入ってから降り続いた雪のため昭和二十年のような大被害がりんごにおよぼす危険が強まったとみて、県下の農家に警告を出すとともに、つぎの方法で被害を最少限くいとめるよう要望している。
①苗木や若木は、全体が小さいので結束しなければ積雪および積雪沈下によって枝が折損するから、結束していないものは掘って結束すること。
②大雪のあとは、新しく軽いうちに木の上の雪を払い落とすこと。
③畑の見回りは計画的に行ない、雪中に突っ込んだ枝先は、雪が新しいうちに引き上げること。
④雪に埋もれた下枝は掘り出すこと。雪がとけて柔らかくなったときをみて枝を引き上げるとか、除去してもよいような枝で沈下の激しい枝は早めに除くことも全体の被害を軽減するのに役立つ。また三月の雪どけ期（彼岸ごろ）に埋まった枝の付近に土や灰などをまいて融雪を早める（一反当たり〇・三坪ぐらい）
⑤剪定部は、ボルトかカスガイなどで早く接着させて、組織の結合促進をはかる。また被害の大きいものは除去し、新たな発育枝を利用して樹形の構成を考えること。
⑥大雪の年は野ネズミや野ウサギの被害が大きいから注意、必要だなお昭和二十年の大雪の時の例をあげれば、下降枝、主枝、裂けたものは、その回復に十三年かかった記録があるので、安易に考えて手を抜けば取り返しのつかないことになると警報を発している。
（写真＝折れかけているりんごの枝もある―金木町朝日町付近）

農事メモ
〈二月〉

◆水田作
○稲の品種は、土地や経営条件を考えに入れて、米質がよく熟期の違ったものを二、三組み合わす。
○種籾は唐箕（とうみ）で風選し従線米選機で選別した充実のよいものを準備する。
○施肥計画はいまから。
○育苗資材の準備。
○農機具の購入は慎重に。
○共同防除体制はいまから検討。

◆畑作
○種は品種を選び、採種圃産のものを入手する。また精選と種子消毒をしておく。
○新しい肥料と農薬について研究し購入計画をたてる。

◆りんご
○枝切り上の注意①実をたくさんとるには、なるべく木を高くして実のなる部分に厚みをもたせる②枝切りをしやすいように幹、主枝亜主枝、側枝（実をならせる枝）の区別をはっきりさせる③実の色着きをよくするため、日光がよく入るように枝切りする。

◆畜産
○栄養障害（骨軟症、くる病）の予防。
○育雛（いくすう）の準備。
○腐蹄の予防。
○豚、めん羊、山羊の出産準備。
○日光浴と運動の励行。
○堆肥の運搬。
○牧草、飼料作物の種の手配。
○乳房炎の検診、早期治療。
○鶏には穀類と魚粕を多めに与える。

旧正の贈りもの
金木洋裁学院など協力

毎年行なわれてきた旧正の〝歳末助け合い運動〟は、今年も町の皆さんや各種団体の協力によって多くの義援金が役場へ届けられた。役場厚生課では、去る二十四日、当町在住の生活保護家庭に醤油、砂糖、うどんなどの現物にかえて配分したが、義援金の内訳はつぎのとおりである。

（地区別）

金木地区	八、七八五円
嘉瀬地区	六、二五〇円
喜良市地区	五、二五〇円
小計	二〇、二八五円

（団体別）

西北運技組合	五、〇〇〇円
金木洋裁学院	三、〇〇〇円
金木町役場職組	七、〇〇〇円
小計	一五、〇〇〇円
合計	三五、二八五円

三上町長の話＝皆さんのご厚意によるこの運動は、保護家庭の皆さんから喜ばれています。幸福をわかちあうということはなかなかできないことです。心からお礼申し上げます。

就職希望者は登録を

△みなさんのなかには
◎きまった職業をもっていない人
◎今の仕事に不満があり、もっと安定した仕事に就きたいと思っている人
◎自分の家族の関係から考えて、家を離れてどこかに就職した方がよいと思っている人
◎農閑期等に他で働きたい人
等いろいろあると存じます。
△こんどみなさんの利便をはかるため町村の役場でも仕事のことをご相談できるようにし、就職希望の登録を行ない、これを役場から公共職業安定所へ取り次ぎしてもらうことになりました。
△就職のあっ旋は公共職業安定所でお世話することになっておりますが、遠いためわざわざ出かけるのがおっくうな場合もありますので就職のことについては町役場（産業課）で気軽にご相談されるようおすすめいたします。

青森県
金木町

選挙の基本名簿確定
知事選は二月十三日～十七日間に申請を

金木町選挙管理委員会では、このほど今年の十二月二十日までに行なわれる選挙に使用する基本選挙人名簿を確定した。投票区ごとの登載人員はつぎのとおりである。

昭和37年12月20日現在確定基本選挙人名簿
登載人員

区分 / 投票区	男	女	計
第一投票区（金木）	1,577人（－36）	1,866人（＋22）	3,443人（－14）
第二投票区（川倉・藤枝）	463（－2）	511（＋23）	974（＋21）
第三投票区（沢部・田原・蒔神）	253（＋12）	273（－3）	525（＋9）
第四投票区（嘉瀬・柏木・中）	1,232（－17）	1,265（＋2）	2,497（－15）
第五投票区（喜良市）	909（＋0）	951（＋25）	1,860（＋25）
合計	4,434（－43）	4,865（＋69）	9,299（＋26）

（　）内は増減

なお二月二十八日には青森県知事選挙が行なわれますが、告示から選挙日までの日程は次のとおり。
△二月三日＝告示、立候補届け出受け付け開始
△二月十二日＝補充選挙人名簿調整現在期日
△二月十三日＝立候補届け出締め切り、補充選挙人名簿申請受け付け開始
△二月十七日＝同締め切り
△二月十九日から二十二日＝同縦覧期間
△二月二十四日＝同異議決定期限
△二月二十五日＝同確定
△二月二十八日＝選挙日